

# プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

バングラデシュ人民共和国

ビルゴンジ地域開発プログラム(BGD-192234)



学校で熱心に勉強するアフサナちゃん(8歳)

## チャイルドストーリー

### 父親が教育の重要性を理解し、 学校に通えるようになりました

ビルゴンジ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすアフサナちゃんは、両親と3人の兄弟と暮らしています。母親は息子だけでなく娘にも教育を受けさせたいと考えていましたが、父親は「女の子を学校に行かせるのは無駄だ」と考え、アフサナちゃんを幼稚園にも通わせませんでした。

そんな状況が変わり始めたのは、両親が2012年にワールド・ビジョン(以下、WV)の活動に興味を持ち始めてからでした。WVのチャイルドとして登録されると、保健・教育・生計向上などの支援を受けることができると知り、両親はアフサナちゃんをチャイルドとして登録しました。両親はADPの様々な集会に参加し、子どもの権利や教育の重要性について学びました。その結果、父親は考えを変え、アフサナちゃんを幼稚園に入れる決断をしました。



休み時間は友だちと楽しく遊びます(右がアフサナちゃん)

現在アフサナちゃんは小学校3年生です。2年生の時に学年で2番の成績を修めたアフサナちゃんの将来の夢は、学校の先生になることです。「私は学校が大好きで、勉強するのは楽しいです」と笑顔で話すアフサナちゃん。両親はそんなアフサナちゃんの夢を叶えることができるように、以前よりも注意深く家計を管理し、子どもたちの教育費を貯蓄するようになりました。

子どもを取り巻く環境改善プロジェクト

栄養改善・保健衛生：

5歳以下の子どもと、母親たちの栄養・健康改善を目指しています



栄養不良の5歳以下の子どもが  
45% (2011年) から26%に減少

2014年度も、支援地域の子どもたちにとって最も大きな課題となっている栄養不良の改善に取り組みました。特に栄養状態の悪い3歳以下の子どもと、その母親を対象にした栄養改善プログラムに1,234人が参加し、うち65%に栄養状態の改善が見られました。また、母親や少女たちを対象にした栄養についての啓発活動を実施しました。これまでの活動の結果、栄養不良とされる5歳以下の子どもたちの割合は45% (2011年) から26%に減少しています。しかし、支援地域では早婚の習慣が根深く残っており、早婚の母親が産出した子どもの栄養状態が悪いという報告があります。地域住民への啓発も含め、引き続きの取り組みが必要です。



子どもの出生登録と栄養の重要性についての啓発活動の様子

教育：子どもたちの教育環境の改善と、質の向上に取り組んでいます

支援地域の学校、就学前教育センター (ECDセンター) の教師へのトレーニングを実施し、教育の重要性についての啓発活動を行い2,335人が参加しました。12の学校に運動用具を支給したほか、地域住民グループの協力のもと、学習が遅れている子どもたちを対象にした補習を行い675人が参加しました。

また、「子どもフォーラム」の活動が活発化しています。現在、支援地域内には20の「子どもフォーラム」があり、12～18歳の子どもたち250人が参加。2014年度は、選抜された15人のメンバーが早婚や児童労働、栄養不良など、自分たちの地域に

ある課題を写真で撮影し、展示会を行いました。この展示会には地元の行政機関の担当者も出席し、地元のメディアにも取り上げられました。



「子どもフォーラム」に  
250人が参加



早婚のリスクについて学び、18歳以下で結婚しない意志を挙手で表す女子生徒たち



栄養価の高い食事について学ぶ生徒たち

## 生計向上プロジェクト

## 最も貧しい世帯の貧困緩和が最重要課題です

2014年度は、最も貧しい400世帯を対象に生計向上のための支援を行いました。このうち、154世帯が牛やヤギなどの家畜飼育や、農業のトレーニングを受け、自分たちの畑や庭で実践しています。同時期に2～3種類の野菜を栽培できるようになり、収穫量も増加しています。そのほかにも、農業以外の収入源を持てるよう、縫製などの小規模ビジネスのトレーニングを実施。特に女性たちが積極的に参加し、農産物の収穫が少ない時期に収入を得るための助けになっています。さらに、地域の開発に取り組む住民グループの強化にも取り組み、リーダーシップやマネージメントについてのトレーニングを行いました。

**\$** 特に貧しい  
**400** 世帯の経済活動を支援



ADPの支援で得たヤギを増やして売り、その代金で牛の飼育も始めた家族



収入向上のため竹細工を始めた家族。収入は前年の2倍に増えました



## 支援地域の女性のインタビュー

## 支援によって極貧の生活から抜け出しつつあります

## Q. 家族構成を教えてください。

夫と3人の子ども、私の母の6人家族です。

## Q. 子どもの頃学校に通いましたか。

いいえ、学校には行ったことがありません。私の父は家族を捨ててほかの女性と再婚し、母が苦勞して私を育ててくれました。学校に行く余裕はありませんでした。

## Q. ADPのどのような活動に参加していますか。

乳幼児の子育てや、貯蓄の重要性、近代的な農法に関する研修に参加し、多くを学びました。また生計向上手段として、荷物や人を乗せる荷台付き三輪車とヤギを提供してもらいました。

## Q. 活動に参加してどのような変化がありましたか。

研修で学んだ知識は日々の生活の中でとても役立っています。また、夫は以前荷台付き三輪車をレンタルして、荷物運びの仕事をしていましたが、レンタル代が高く収入はわずかでした。今はADPから提供を受けた自分の三輪車で仕事ができ、大変助かっています。また、ヤギも子どもを産んで増え、そこから新たな収入を得ることができました。

## Q. 今の夢を教えてください。

非常に貧しい家庭で育ち、14歳で結婚した私にとって、以前は家族が毎日食べていく以外のことを考える余裕はありませんでした。でも支援を受けて、将来に夢を持てるようになりました。子どもたちが教育を受け、社会の役に立つ人間に育つことが私の夢です。



子どもたちに食事を食べさせるグルナハールさん(31歳)

## ADP マネージャー・インタビュー



### Q.どんな仕事をしていますか。

ADPの責任者として、予算に基づいたプロジェクトの企画運営、行政や関係機関との交渉や連携、プロジェクトの報告と評価、ADPスタッフの育成と管理などを行っています。

### Q.ADPの活動で課題となっていることは何ですか。

支援地域の人々を活動に参加するよう促すことです。たとえばトイレを設置する際に、囲いは地域の人々に作ってもらうようにしました。ADPがすべての建設工事を行うのではなく、地域の人々の参加を促し、自分たちで地域を良くしていくという意識を持ってもらうよう努めています。

### Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

私自身子どもがいるので、貧困ライン以下の生活をして

いる子どもたちを見ると心が痛みます。最も弱い立場に置かれた子どもたちの生活を改善していくことに使命感を感じています。



ビルゴンジADPマネージャー  
アドヴェント・トリブランド(左, 50歳)

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



ECDセンターで学ぶ子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

2014年度は、地域住民の協力のもと25のECDセンターを運営。613人の子どもたちが学び、うち317人が小学校へ進級しました。

## 会計報告

BGD-192234

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

### プログラム支援額(単位:円)

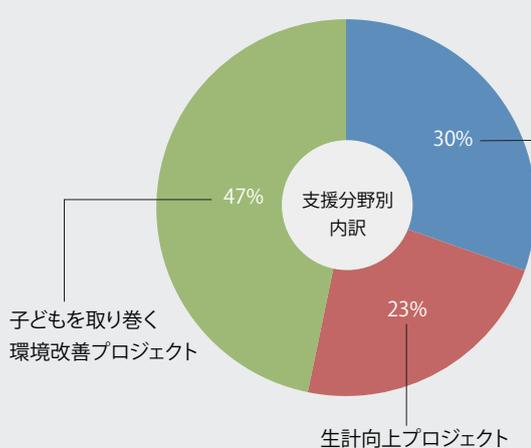
チャイルド・スポンサーシップ	51,535,860
当期支援額	51,535,860
前期繰越金	2,638,072
プログラム支援額合計	54,173,932

### プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	16,782,497
生計向上プロジェクト	12,597,250
子どもを取り巻く環境改善プロジェクト	25,809,245

プログラム支出額合計	55,188,992
次期繰越額	-1,015,060

### スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン  
電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)  
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp  
e-mail：dservice@worldvision.or.jp